PRO MUSICA NIPPONIA

日本音楽集団

第141回◈定期演奏会～秋岸寛久作品特集

1996年1月30日㈫ 午後7時開演
バリオホール

主催：日本音楽集団
製作協力：奈良音楽事務所

〒151 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302
TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033

プログラム
秋岸寛久作品特集

一、月の頃（改訂初演）

［二十絃箏］ 久東　寿子　　［十七絃］ 大畠菜穂子

本日の演奏者、久東寿子さんと大畠菜穂子さんのジョイントリサイタルのために、私が日本音楽集団に入団した1987年に書いた二十絃と十七絃の二重奏です。枕草子の第一段「…夏はよる。月のころはさらなり、…」からタイトルをつけました。月というより、「やっと涼しくなってきた夏の夜の庭先」のイメージのサラッとした爽やかな曲で、自由で即興的なⅠ章と、継続する十七絃が特徴的なⅡ章からできています。

「今ならこうは書かないかな」と思われる部分もあり、大幅な変更をしようかとも思ったのですが、楽譜を眺めているうちに当時の様子が懐かしく思い出され、また若さの勢いも失われるような気がして、最少限の改訂としました。

９年ぶりの初演のメンバーによる再演が楽しみです。

二、和讃玲讃（初演）

［笛・尺八］ 添川　浩史　　［二十絃箏］ 山田　明美　　［サヌカイト］ 臼杵美智代

笛、二十絃、石の打楽器サヌカイトの三重奏です。讃岐（香川県）で採れることから命名されたこの石はたたくとたいへん美しい音がします。曲は主題とその自由なヴァリエーションからなっていて、３つの楽器が個性を主張しながら協調し軽快にアンサンブルが進行します。気楽に楽しめる明るい曲です。（サヌカイト提供・宮脇磬子氏）

三、撃　壌　歌

［　笛　］ 西川　浩平
［打楽器］ 黒坂　　昇・望月太喜之丞・立枝　恵子・杉浦　邦雄

「日出でて作（な）し、日入りて息（いこ）う…」
天下太平を喜び楽しんで老人が大地をたたきながら歌ったという「撃壌歌」。そのおおらかなイメージが笛や太鼓という素朴な楽器にふさわしく思い、このタイトルをつけました。

打楽器は16種類、30個以上使っています。皆さんどれくらい名前をご存じですか。仏具は宗派によって呼び方や表記が違うことも多く、私も資料を手元において作曲した記憶があります。

自由で即興的なⅠ章と緻密なアンサンブルの要求されるⅡ章からなっています。1990年日本音楽集団第112回定期演奏会にこのバリオホールで初演され、また、そのライブ録音がNHKFM「現代の音楽」で放送されました。

～　休　　憩　～

四、萌　生（改訂初演）

［尺　八］ 米澤　　浩　　［薩摩琵琶］ 石田　さえ　　［十七絃］ 宮越　圭子

尺八、十七絃、琵琶というちょっと変わった編成のこの曲は、1989年坂田梁山、松村エリナ、坂田美子の三氏によるグループ「一管二絃」の委嘱で書きました。その第一回目の演奏会の一曲目に初演されるということで、何かが生まれる、新しいことがはじまる、といった期待感のようなものを曲に表そうとしました。

拍子感のないゆったりとした部分のあと、十七絃のオスティナート風の動きに乗って尺八のテーマ、再び拍子のない部分、ゆっくりしたテンポの中間部、各楽器が技巧的に活躍する速い部分、そしてテーマの再現、コーダ、という構成の単一楽章の曲です。

五、響影空間（初演）

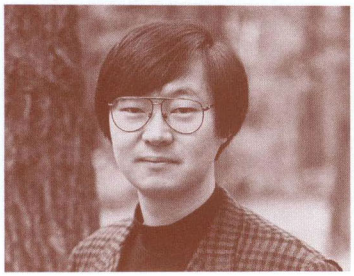
独奏群
［尺　八］　三橋　貴風　　［三味線］　簑田　司郎　　［打楽器］　黒坂　　昇
合奏群
［　笛　］　Ⅰ西川　浩平　Ⅱ添川　浩史
［尺　八］　Ⅰ水川　寿也　Ⅱ加藤　秀和　Ⅲ石田　忠史
［琵　琶］　Ⅰ田原　順子　Ⅱ石田　さえ
［二十絃箏］　Ⅰ宮越　圭子・久東　寿子　Ⅱ大畠菜穂子・城ヶ崎美保
［十七絃］　桜井　智永・高橋はるな
［打楽器］　望月太喜之丞・立枝　恵子・杉浦　邦雄
［指　揮］　中村　ユリ（客演）

尺八、三味線、打楽器と邦楽器群のための協奏曲です。各楽器の細かいキザミと独奏楽器群の即興的な動きが対照的なⅠ章、尺八と三味線の二重奏から次第に全体合奏へと発展していくゆっくりとしたテンポのⅡ章、打楽器群の活躍するテンポの速いⅢ章からなっています。

洋楽器に比べて邦楽器は強い個性とそれぞれの背景を持っているので、その組み合わせ方によって対比と調和の度合いが異なり、新しい響きの空間を生み出します。この３種の楽器からはどんな空間ができますでしょうか。

（解説＝秋岸寛久）

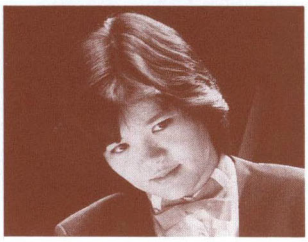
プロフィール



秋岸　寛久（作曲）

1962年横浜生まれ。中学生の頃より作曲を助川敏弥に師事。東京音楽大学で、作曲を浦田健次郎、三木稔、箏を野坂恵子の各氏に師事。在学中より邦楽器のための曲を書き始め、卒業のときに作曲した三味線とオーケストラのための協奏曲が仙台フィル、及び日本フィルの定期演奏会で演奏される。同大学研究科を修了後日本音楽集団に入団。日大芸術学部講師。

邦楽器のための主な作品
邦楽合奏のための「光彩陸離」・「複素空間」・「発散と収束と」
２本の尺八と箏群のための「流翠」
「響像」－尺八、地歌三味線、箏、十七絃のために－
ヴァイオリンと三味線のための「飛湍」
尺八独奏のための「五つの空間」・「青の諧調」
二十絃独奏のための「２つの諧調」
十七絃独奏のための「火群（ほむら）」



中村　ユリ（指揮・客演）

1984年国立音楽大学教育音楽科Ⅰ類卒業。1987年桐朋学園大学ディプロマコース指揮科入学。指揮を尾高忠明、秋山和慶、小澤征爾、小松一彦の各氏に師事。1990年第40回ブザンソン国際青年指揮者コンクール入賞。1991年に東京国際音楽コンクール指揮部門で第２位受賞。以来、東京室内歌劇場、モーツァルト劇場、横浜シティオペラ協会で副指揮者、湘南台文化シアターオープニングセレモニーレディースオペラで「スザンナの秘密」「奥様女中」他、オペラ公演の指揮、東京交響楽団、新日本フィルハーモニー他のオーケストラに客演。相愛大学講師、国立音楽大学非常勤講師。

1996年度研修生および団員募集

日本音楽集団では1996年度、下記種目の研修生および団員を募集します。

【演奏部門】　笛類、笙※、ヒチリキ※、尺八、胡弓、琵琶、三味線類、箏類、打楽器、指揮※

【理論部門】　作曲※、文芸・評論※　　※印は団員のみ

★研修生について－プロを目指して勉強をしたい方。

★団員について－古典から現代の日本音楽の演奏をソロからアンサンブルまで、即プロの演奏家として活動できる東京(近郊を含む)在住の方。

【オーディション日】　研修生→1996年3月20日(水・祝)
　　団　員→1996年3月21日(木)

詳細は日本音楽集団事務局までお問合わせください。

箏

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和樂器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437